

地域と学ぶ

山形大地域教育文化学部

山形県内では新年度、小中学校における「探究型」という学習を全体的に展開することになっています。

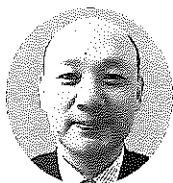
県の広報紙「県民のあゆみ」の昨年7月号の特集記事に、この探究型学習の説明が掲載されており、「課題の設定」「情報収集」「整理分析」「まとめ・表現」という一連の探究活動を進めていく学習としていきます。

県教育委員会では、この学習で「自ら考え、主体的に判断する力と、変化や困難に直面しても柔軟に対応で

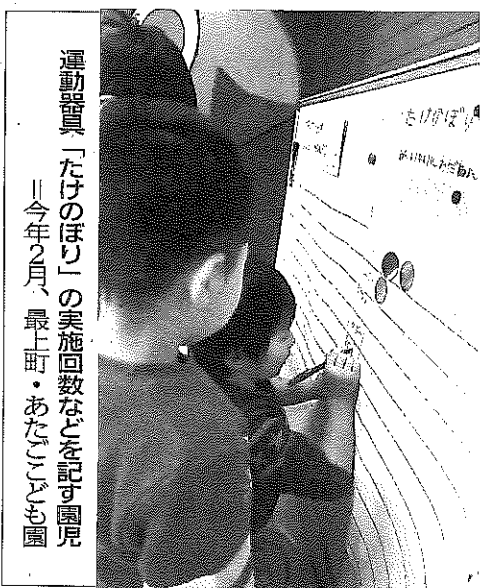
教育

野口徹 准教授 生活科・総合的学習教育

「探究の芽」受け継ぎ伸ばす



▽1962年生まれ、東京都出身。山形大着任は2011年。



運動器質「たけのぼり」の実施回数などを記す園児
11年2月、最上町・あたごこども園

「探究」の「物事の本質を
探って見極めようとする」という意味からも、探究型学習は、子どもが本質的な課題を設定し、その解決を追究する活動からこれからの時代に必要となる能力を獲得する学習」と言えそう

ある強さを身に付けていくことを目指すのだそうです。ある課題を見付けることができないのでしょうか。そしてそれを支える教育はどのようなものがあるべきなのでしょう。子どもが本質的な課題を設定し、その解決を追究する活動からこれからの時代に必要となる能力を獲得する学習」と言えそう

的学習」の本質があるように思われます。
11月4月からはNIEのページに月1回掲載します

ではありません。遊びの中には「うまく登るこつ」が隠れています。子どもは遊びながらこれを敏感に見つけます。それだけでなく、どの子どもも「発見」を文字に書くなどさまざまな方法で表現しようとしています。つまり、幼児期から子どもの「探究」は始まっているのです。

この「探究の芽」を同町小ではいかに受け継ぎ、伸ばしていかたいかと考えています。子どもと共同で研究していきます。子どもの姿に真摯（しんし）に向かい、その能力を伸ばそうとするこのような研究こそ、「探究